

「研究テーマ」

お互いの思いを大切にし、伝え合い高め合う子どもの育成をめざして ～新聞に親しみ、新聞を通して思いを伝え合おう～

宍粟市立都多小学校 教諭 福井 充

1 はじめに

本校は全校児童 44 名の小規模校である。児童は幼少時からの顔見知りほとんどで、お互いの仲間意識や規範意識も高い。その反面、他者と異なる自分の意見を口にし、お互いの意見を交流させて考えを深めていくような学習活動には積極的に取り組みにくいという現状があった。そこで、NIE 実践校としての活動をスタートさせるにあたり、新聞を活用して自分の思いを表現し、仲間に伝え合うことの楽しさを体験させたいと考えた。実践 1 年目の今年度は、まず児童に新聞の存在を身近にとらえさせ、新聞に親しむことをテーマに設定し、学習活動を組んでいった。

2 実践の様子

【1年生】

小学生新聞を読みながら、赤鉛筆で知っている漢字に赤丸を入れていく活動。印を入れていくというだけで、集中力が高まり、記事そのものへの理解も深まった。同時に、国語科の言語的な力の伸びも期待できる。2つ目



は、小学生新聞の 4 コマ漫画を切り取り、4 コマ目を隠して自分の考えたオチを書く活動を行った。作者と自分の違いに驚いたり感心したりしながら、楽しんで取り組んだ。また〈起承転結〉の話の展開の仕方も学ぶことができた。

【2年生】

国語のカタカナ学習と関連づけながら、新聞にあまり触れる機会のない 2 年生に、新聞への興味・関心を持たせる授業を行った。

授業の展開は、国語で学習した「かたかなで書くことば」を復習したあとで、それらを



新聞から探して切り抜き、次の 4 つに仲間分けをし、色画用紙に貼っていった。

- ①動物の鳴き声
- ②いろいろな物の音
- ③外国から来たことば
- ④国の名前や土地の名前、人の名前

児童はカタカナを見つけるたびに、「見つけた。これ、切り抜くで。」と言いながら集中して取り組むことができた。中には「脱デフレ」や「ウォン高」などカタカナの意味自体

が分からないものもあったが、国の名前を意外によく知っていて、感心した。テレビニュースと新聞の見出しを関連づけて感想を口にする児童もいた。①動物の鳴き声、②いろいろなものの音・様子を表すカタカナは、読者のページ（投稿欄）や4コマ漫画のところからもさがすように指示を出した。お互いの新聞を交換して、見落としがないかをチェックする姿も見られた。見つけたい言葉を探し出す楽しさを感じながら、新聞に親しもうとする態度が育ってきた。

【3年生】

自分の興味関心のある写真や記事を切り抜き、自由帳やスクラップブックにファイルする。ファイルした写真や記事にタイトルをつけ、コメントを書き込む活動に取り組んだ。



児童は、新聞記事や写真の内容に興味を持ちながら、「何が書いてあるんだろう。」「何の写真かな?」と考えながら切り抜きをした。

さらに、記事や写真の内容と自分の考えを比べながら、感想を書くことができた。

【4年生】

自分が興味・関心を持った写真や記事をスクラップし、そこから読み取ったことを要約して友達や家族、先生に伝え、お互いの感想を聞き合う。それをもとに再度記事についての自分の考えをまとめるという言語活動を行った。自分が気になった記事を家族に紹介し、聞き取りをするだけでなく、公開授業で、参観の先生たちに、記事についての自分の感想を伝え、先生の考えを聞き取る活動も行った。



その後、聞き取りした先生たちの考えを取り入れながら自分の考えをもう一度まとめ、スクラップブックに記録し、それをみんなの前で発表した。

【5年生】

理科の天気学習の一環として「新聞の天気関係の記事を連続で集め、その変化を読み取る学習」を行った。

新聞の気象欄に載っている「今日の天気」と「場所・時間・天気」「今日の日本上空の等圧線図」「日本各地の週間天気予報」「ひまわり7号の雲画像」などの資料を活用した。



そして、身近な土地（兵庫県南部・北部）の天気や雲の変化や流れ、日本全体での天気の変化を連続で観察することができた。さらに身近で見ることができる毎日の新聞を活用することで、児童が興味を持って新聞に触れ、身近な場所の天気の変化を感じとることができた。

また、自分たちのくらしや、身の周りの自然に影響をあたえる天気やその予報を意識することで、防災教育にも活かすことができた。

【6年生】

6年生では連絡ファイルを利用して毎日のミニ作文に取り組んできた。学校への新聞提供が始まってからは「新聞に親しむ」ことを目標としてこのミニ作文での新聞記事紹介に取り組んだ。

まず第1段階として、新聞に掲載されている写真を切り抜くことを課題とした。記事、広告を問わず新聞に載っている写真（イラスト）で興味を持った物を切り抜き、それについて自分の感じたことを紹介するというミニ作文である。作文の内容は写真を見て思ったこと、自分の感想など、記事の文面に関わらないものとした。これは「文章が難しいから見ない」という児童の実態をふまえ、気軽に新聞に触れられることを目指した。この取組で新聞にひととおりの目を通すことをある程度身につけることができはじめた。この取組は後述の児童会での「新聞グランプリ」につながった。

【児童会の取り組み】

6年生の実践として新聞の写真に着目した取り組みを進める中で、児童から児童会行事の中で新聞を活用することはできないかという意見が出てきた。それを受けて、全校で取り組むイベントとして「新聞グランプリ」を計画し、実施することができた。

この企画段階では6年生児童が中心となってアイデアが話し合われ、準備が進められた。その結果、1年生から6年生までが楽しめる内容として、児童会がテーマを決めて、一人ひとりがそれにそった写真やイラストの中で気に入ったものを切り抜き、紹介し合う「新聞グランプリ」を実施することとなった。ち

ようど、学校行事としての「学習発表会」が近づいており、新聞の切り抜きをする児童が減っていたため、もういちど新聞に目を向けてもらいたいという6年生の思いもあった。

第1回新聞グランプリでは、全校のみんなが気軽に取り組めるテーマとして「おいしそうな写真」「おもしろい写真」の2本立てで作品を募集した。まず新聞や広告からテーマに沿った写真を選び、全児童が応募したものを掲示して児童がお互いの選んだ写真を見られるようにした。次に、気に入った写真を選んでの投票をおこない、金銀銅の3つの賞と学校長選出のすごいで賞の表彰をした。下級生から「おもしろかった」との感想を受け、新しい行事を実践したことに6年生児童は達成感を味わうことができた。

第2回新聞グランプリでは、「どうしてその写真を選んだのか」という選んだ時の気持ち

ちを表現できるよう、理由も添えて応募する形とした。テーマは「カッコイイ、カワイイ写真」とし、多様な考えが引き出せるよう配慮した。同じ写真を選んだ児童もいたが、選んだ理由が違っていたので、投票の際には、



自分の考えと比べながら投票する姿が見られた。児童は、自分の感じ方、考え方を友だちに発信でき、伝え合う楽しさを味わうことができた。

3 今年度の成果と次年度への課題

本校児童にとって新聞はどちらかと言えば遠い存在であり、大人が読むもの、難しいことが書いてあるものという意識が強かったようである。このため本年度は、児童の意識を「新聞って意外と面白い。」という方向に変えていくために、児童の興味関心をもとに記事や絵、写真等を用いた楽しい活動を取り入れることを重視した。児童会活動においても、学年・年齢を超えた楽しみ方ができるようにと考え、楽しい企画が作られた。実際この企画は、全校児童と教員、保護者を巻き込んで人気の取り組みとなってきた。このような実践の積み重ねを通して、本校児童と新聞の距離は確実に縮まってきている。

本年度の成果を基に、来年度は、各学年の取り組みでは、特に言語活動との関連を重視しながら活動を工夫していきたい。また、PTAとも連携し、家庭を巻き込み、新聞をより身近に感じるNIEとなるよう、具体的な取り組みを考えていきたい。